



命をつなぐ自然農法

20代前半、1人目を妊娠時、食の大切さと向き合うことになりました。重いつわりで何も喉を通らず、入院しなければならなくなりましたが、自然農法のお米・野菜だけは食べられました。食べることは生きる源、命そのものだと実感しました。子から孫へと命の連鎖は繋がっていきます。母として、安全な食べものを選び、伝えていくことも必要だと考えるようになり、3人の子を自然農法の農産物で育ててきました。大自然のエネルギーを存分に吸った、力強く生命力あふれる農産物。おいしいのはもちろん、作物本来の味を五感で味わう感動があります。農家さんの愛情と、自然の摂理を尊重した栽培方法の成し得る技です。農家さんと、皆様の健康の橋渡しのお手伝いをしたいと願っています。

ふるさと21株式会社 水野和江

「ファームレター」vol.17
2017年10月25日号（毎月発行）
発行／一般社団法人 自然食ねっと
デザイン／株式会社ナシカ
文・編集／石川千晶 写真／浦岡伸行



那須自然農園の情報を映像でご覧いただけます。



一般社団法人
自然食ねっと

〒250-0024 神奈川県小田原市根府川 549-3 TEL.0120-07-8313

◎自然食ねっと参加生産者の作物を产地直送



*那須自然農園の商品は上記サイトでご購入いただけます。

宇土半島の豊かな自然が育む秋の味覚の王様
柿はビタミンCやカロチン、タンニンなどを豊富に含むヘルシーな果物。温暖な気候が柿栽培に適している熊本県は、甘柿の栽培面積全国1位を誇る。定番の「富有柿」に加え、優良新品種の「太秋」の生産量・出荷量は年々増加し、全国の約4割以上を生産しているほどだ。果実の大きさは平均380グラム前後と大玉傾向にあり、500グラムを超えるものもある。梨のようなサクサクとした食感と果汁の多さが特徴で、糖度18度前後と従来の柿よりも2度ほど甘い。

名水百選にも選ばれた轟水源がある自然豊かな熊本県宇土市で、無農薬・無化学肥料の自然農法を実践してきた那須直敏さん。病害虫や台風と戦いながら、有機JAS認証と完全無農薬・無化学肥料の「MOA自然農法認定」を取得し、安心安全な米や自然薯、甘藷などの農作物を栽培している。平成26年には「第19回環境保全型農業推進コンクール」で優秀賞を受賞した。特別栽培で大事に育てる太秋柿は、「一度食べたら忘られない味と食感」だという。



那須自然農園の商品
MOA特別栽培 太秋柿 約2kg(5~6玉)

※価格は時価。商品の詳細は「ふるさと21」サイト
(www.fsec.jp)をご覧ください。

那須自然農園 熊本県宇土市岩古曾町 528

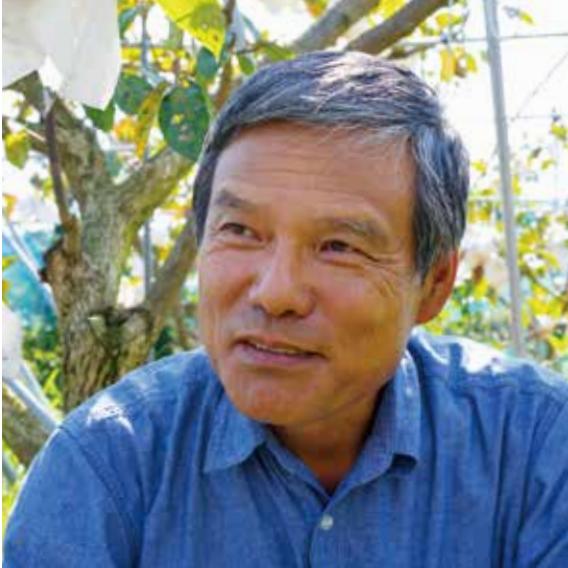
*写真はイメージです。

Nasu Natural Farm 那須自然農園

感動を行動に結びつける
那須直敏の挑戦

土と創る⑯ 宇土太秋柿





【那須自然農園 那須直敏さん】

喜ばれる農産物を作つていきたい

食べてみて驚いた太秋柿のおいしさ

太秋柿は熊本県で栽培が盛んな品種です。最初、すぐ近所の人が作り始めたときに、ちょっと分けてもらつて食べてみたら、ほかの柿とは全然違う。「わあ、おいしい!」と、自分でも作ろうと思いました。400～500グラムと通常の柿の2倍ほどの大きさで、子どもの顔のようにもっとと巨大なものもあります。りんごと梨をかけあわせたようなサクサクした新しい食感が特徴の甘柿です。

圃場は50アール。30アール未満の農家が多いなか、面積は少し多いほうです。法人化して従業員を4人雇っているので、できるのかもしれません。親父の代から有機農業、MOAの自然農法に取り組んでいましたから、それを受け継いでいます。

親父が始めた40、50年前には、周囲に有機農家はいませんでした。うちの田んぼで農薬を使わないために「虫が移動てくる」と言われることもあり、技術的なものに加えて、農薬の使用が当たり前の環境で周りの理解を得るのは大変でした。

収量が1／3でも特別栽培を貫く

太秋柿などの改良されたおいしい果樹は病害虫



太秋柿を始め、甘藷、玉ねぎ、にんにくと、野菜をどんどん広げているところです。にんにくはこの土地に合う「嘉定種」という品種を作っています。

J Aの指導にそつて農薬を使えばほとんど全量収穫できますが、今年のように虫の害がひどいと、収量は1／3ほどになります。それでも特別栽培にこだわるのは、うちでは米にしろ野菜にしろ、完全無農薬・無化学肥料で栽培するのが基本だからです。いま特別栽培なのは柿だけで、あとはすべて完全無農薬で作っていますから、できるだけそのレベルに近づけたいという思いがあります。どうせ農業をするなら、ただ米や野菜をたくさん収穫するということではなく、お客様に喜んでもらえるような農産物を作つていきたいですね。

自然薯からスタートした有機農業

自然薯の後は親父と有機米を作り、自分の代で太秋柿を始め、甘藷、玉ねぎ、にんにくと、野菜をどんどん広げているところです。にんにくはこの土地に合う「嘉定種」という品種を作つています。JAの指導にそつて農薬を使えばほとんど全量収穫できますが、今年のように虫の害がひどいと、収量は1／3ほどになります。それでも特別栽培にこだわるのは、うちでは米にしろ野菜にしろ、完全無農薬・無化学肥料で栽培するのが基本だからです。いま特別栽培なのは柿だけで、あとはすべて完全無農薬で作っていますから、できるだけそのレベルに近づけたいという思いがあります。どうせ農業をするなら、ただ米や野菜をたくさん収穫するということではなく、お客様に喜んでもらえるような農産物を作つていきたいですね。

暮のシーズンがいちばん出ます。今年は台風3号の被害が出ました。そのあとは台風の直撃を受けることもなく、ホッとしています。

自然薯の後は親父と有機米を作り、自分の代で太秋柿を始め、甘藷、玉ねぎ、にんにくと、野菜をどんどん広げているところです。にんにくはこの土地に合う「嘉定種」という品種を作つています。JAの指導にそつて農薬を使えばほとんど全量収穫できますが、今年のように虫の害がひどいと、収量は1／3ほどになります。それでも特別栽培にこだわるのは、うちでは米にしろ野菜にしろ、完全無農薬・無化学肥料で栽培するのが基本だからです。いま特別栽培なのは柿だけで、あとはすべて完全無農薬で作っていますから、できるだけそのレベルに近づけたいという思いがあります。どうせ農業をするなら、ただ米や野菜をたくさん収穫するということではなく、お客様に喜んでもらえるような農産物を作つていきたいですね。

親父の代はほとんどJA出荷で、無農薬で有機米を作つても差別化ができず、普通の米と一緒に扱われました。50年も昔は自分で販路を開拓するところまでいかず、家族で食べるものを無農薬で作り、余った分をJAに出していたのです。

熊本は有機JAS認証を受けている農家の数が全国で3番目に多い県です。山都町などは特に有機の生産者が多く、まとまった量の有機農産物が確保できるので、出荷先を見つけやすいところがあります。宇土市でも有機の生産者が増えれば吸引更多がくなっています。ひとりで販売し

力を入れていきたい販路開拓

太秋柿を始め、甘藷、玉ねぎ、にんにくと、野菜をどんどん広げているところです。にんにくはこの土地に合う「嘉定種」という品種を作つています。JAの指導にそつて農薬を使えばほとんど全量収穫できますが、今年のように虫の害がひどいと、収量は1／3ほどになります。それでも特別栽培にこだわるのは、うちでは米にしろ野菜にしろ、完全無農薬・無化学肥料で栽培するのが基本だからです。いま特別栽培なのは柿だけで、あとはすべて完全無農薬で作っていますから、できるだけそのレベルに近づけたいという思いがあります。どうせ農業をするなら、ただ米や野菜をたくさん収穫するということではなく、お客様に喜んでもらえるような農産物を作つていきたいですね。

暮のシーズンがいちばん出ます。今年は台風3号の被害が出ました。そのあとは台風の直撃を受けることもなく、ホッとしています。

自然薯の後は親父と有機米を作り、自分の代で太秋柿を始め、甘藷、玉ねぎ、にんにくと、野菜をどんどん広げているところです。にんにくはこの土地に合う「嘉定種」という品種を作つています。JAの指導にそつて農薬を使えばほとんど全量収穫できますが、今年のように虫の害がひどいと、収量は1／3ほどになります。それでも特別栽培にこだわるのは、うちでは米にしろ野菜にしろ、完全無農薬・無化学肥料で栽培するのが基本だからです。いま特別栽培なのは柿だけで、あとはすべて完全無農薬で作っていますから、できるだけそのレベルに近づけたいという思いがあります。どうせ農業をするなら、ただ米や野菜をたくさん収穫するということではなく、お客様に喜んでもらえるような農産物を作つていきたいですね。

Oganic JAS "JINENJO" from KUMAMOTO.

熊本県でさきがけとなった自然薯栽培

「自然薯にはすごく思い入れがあるんです」と語る那須さん。かつて、「松茸と自然薯は人工栽培ができない」と言われていたが、山口県の政田自然農園が世界で初めて自然薯栽培に成功したという記事を読み、「おもしろいなあ」と40年ほど前に取り組み始めたという。しかし、山に自生する自然薯を畑で栽培するのは簡単なことではなかった。

「土壤消毒もしないし、農薬もやらん有機栽培だから、病害虫にやられてしまうし、なかなか難しかったですね。10年ぐらいして、やっと少しとれたかなという感じで、その間は失敗の連続でした」

試行錯誤の末に那須さんが熊本県で初めて完全無農薬栽培に成功した自然薯は、1.4メートルの栽培容器からはみ出す2メートル近い長さ。全國的にも希少な有機JAS認証の自然薯は贈答用の化粧箱入りのほか、30センチくらいの長さにカットした真空パックも人気がある。毎年、大手スーパーからの注文が多く、いまは栽培が間に合わないほどだ。

孫の希美(のぞみ)ちゃんの背丈ほどもある自然薯

農業のときにはまず手掛けたのは自然薯です。20歳過ぎから40年も作つてることになりました。その仕事をしながらも、小さい頃から親しんできた農業が忘れられませんでした。サラリーマンと違つて、農業には自分で思うようにできる魅力があります。兼業農家として有機の農作物を作り、平成12年に思いきつて脱サラして専業農家になつてから、もう20年近くになります。

兼業農家のときにはまず手掛けたのは自然薯です。20歳過ぎから40年も作つてることになりました。その仕事をしながらも、小さい頃から親しんできた農業が忘れられませんでした。サラリーマンと違つて、農業には自分で思うようにできる魅力があります。兼業農家として有機の農作物を作り、平成12年に思いきつて脱サラして専業農家になつてから、もう20年近くになります。

妻の千代さん、娘婿の田所実さんと力を合わせて、一緒に農業を続けています。

太秋柿は11月中に収穫が終ります。自然薯は12月からお歳

ようとしても、量を求める大手は相手にしてくれません。生産者が集まつて生産量をきちんと確保できれば、商談しやすくなります。ただじつと待つでいても有機農産物は売れないので、もっと販売努力をしていかないとと思っています。

私は娘が二人いて、いま娘婿と一緒に仕事をしています。彼が後継者として一人前になつたら生産の方を任せ、私は販売の方に力を入れて、早く安定できる形に持つていただきたいと思っています。

宇土地域には農業をやつしている若い人の数が少ない上に、ほとんどがハウス栽培というのが実情です。でも、宇土市のUTTOをユーティーオーと読ませるグループのなかで娘婿も活躍しています。そうして、スーパーなどと取引を始めています。そういう取引を始めた若者のグループに今後、どんどん伸びていってほしいと願っています。

妻の千代さん、娘婿の田所実さんと力を合わせて、一緒に農業を続けています。

太秋柿を始め、甘藷、玉ねぎ、にんにくと、野菜をどんどん広げているところです。にんにくはこの土地に合う「嘉定種」という品種を作つています。JAの指導にそつて農薬を使えばほとんど全量収穫できますが、今年のように虫の害がひどいと、収量は1／3ほどになります。それでも特別栽培にこだわるのは、うちでは米にしろ野菜にしろ、完全無農薬・無化学肥料で栽培のが基本だからです。いま特別栽培なのは柿だけで、あとはすべて完全無農薬で作っていますから、できるだけそのレベルに近づけたいという思いがあります。どうせ農業をするなら、ただ米や野菜をたくさん収穫するということではなく、お客様に喜んでもらえるような農産物を作つていきたいですね。

